

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0329
施設名	多摩保育園
施設所在地	昭島市東町5-1-40
法人名	社会福祉法人 多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ひかりプロジェクト」

<テーマの設定理由>

光と影という身近なものから子どもの興味関心を引き出し、さらなる探求につなげられる活動を考え提供した。

2. 活動スケジュール

9月4.5日～1月

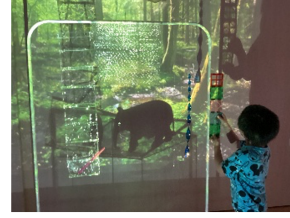
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スクリーン、プロジェクター、プラスチック容器（たまごパックなど）、半透明のもの、ハンガーラックなど吊るせるもの、動物のフィギアなど、ライトテーブル、ライトテーブルに乗せる野菜など、2面鏡、マイクروسコープ、書画カメラ、自然物（まつぼっくりなど）、テグス

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

初回は、ライトテーブルエリア、書画カメラエリア、プロジェクターエリア、マイクروسコープエリアに分けてそれぞれのコーナーで活動をした。



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ライトテーブルエリア…スライスした野菜や果物を並べると「きれい!」「種がこんなにはいってるんだね」と発見を言葉にして共有していた。鏡に映したりガラス球に写っていることに気付いて覗き込む姿もあった。

書画カメラエリア…写しているものとスクリーンに写ったものが反転していることに気付くまでに時間がかかった。保育者がきっかけを作ることで子どもの気づきからの探求が深まっていくと感じた。

プロジェクターエリア…背景を森と海の2箇所用意した。近くにプロジェクターの近くに置いたものは小さく写り遠くに置いたものは大きく写ることに気づいた子がいた。動物のフィギアを写してスクリーンで戦わせたり、半透明のマグネットブロックで形を作って写したりと遊びが次々に発展していた。

マイクروسコープエリア…自然物や机、壁、羊毛など身近なものをマイクروسコープや顕微鏡を使って観察した。葉脈が見えることに気づいたり、自分や友だちの肌や髪の毛を観察するなど探求を深めていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3.4.5歳の縦割りグループを作って行うことで、5歳児の気づきに年下の子も感動を共有したり、活動が広がっていく様子が見られた。

身近な素材の新たな発見や、そこからさらに探求したいという気持ちがとてもよく見られた。気づきや感動をたくさん言葉にする子もいれば黙々と探求を深めていく子もいたり、個性の発見にもつながった。